

## One Earth Guardians 育成プログラム

2022 年度

# 活動報告書

## 機構長より

One Earth Guardians育成プログラムの活動にご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、2023年4月1日をもちまして、東京大学大学院農学生命科学研究科長・農学部長ならびにOne Earth Guardians育成機構長に就任いたしました。微力ではございますが、100年後の地球のために、One Earth Guardians育成プログラムの教育・研究活動の発展に誠心誠意取り組む所存でございます。何卒、今後ともご指導ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

今春 One Earth Guardians育成プログラムは第6期生となる受講生を迎える、在学中のメンバーは大学1年生から博士課程まで約60名、大学を卒業・修了して社会に羽ばたいていった受講生は15名となりました。それぞれの場所で One Earth Guardiansを志して努力を重ね、自らのなすべきこと、できることを思索していること信じています。

新たに参加した6期生からは、大学入学以前から One Earth Guardiansに関心を寄せていたという嬉しい声も聞かれました。皆さまのご協力を得ながら活動を積み重ねてこられたことに感謝するとともに、あらためて、次の世代に One Earth Guardiansの精神をつなぎ、持続可能な営みとしていくことの重要性を感じております。

2022年度は、高校生や大学1・2年生ら若者を対象に、自分自身の「好き」を伸ばしながら地球を救うアイデアの実装を支援する新たな取組み「Good Life on Earth」も始まりました。他の研究科の教員からも協力を得て推進されており、プログラムの活動は分野・年代ともさらにひろがりを見せています。

今、社会のさまざまな課題を解決するためには、「総合知：多様な『知』が集い、新たな価値を創出する『知の活力』を生むこと」が必要であると言われています。自然科学から社会科学まで、あらゆる立場からヒトを含めた生物にかかる専門家たちが集う農学はまさに総合知の実践の場であると言えますが、本年2月に内閣府主催で開催された第2回総合知ウェビナーでは、One Earth Guardians育成プログラムが総合知の活用好事例として選ばれ、紹介されました。

食料生産をはじめ、人類の生存はさまざまな生物たちが織りなすシステムによって支えられています。人間の営みをつづけながら、いかに、他の生物たちと共生する生物圏に私たちが貢献していくのか。さまざまな「知」を結集してこの問題に向き合い、取り組める科学者を輩出していけるよう、教育・研究プログラムとして更なる努力を重ねて参ります。

One Earth Guardians育成プログラムを、今後とも末永く応援いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

2023年6月

東京大学 大学院農学生命科学研究科長・農学部長  
One Earth Guardians育成機構長

仲嶋 康博



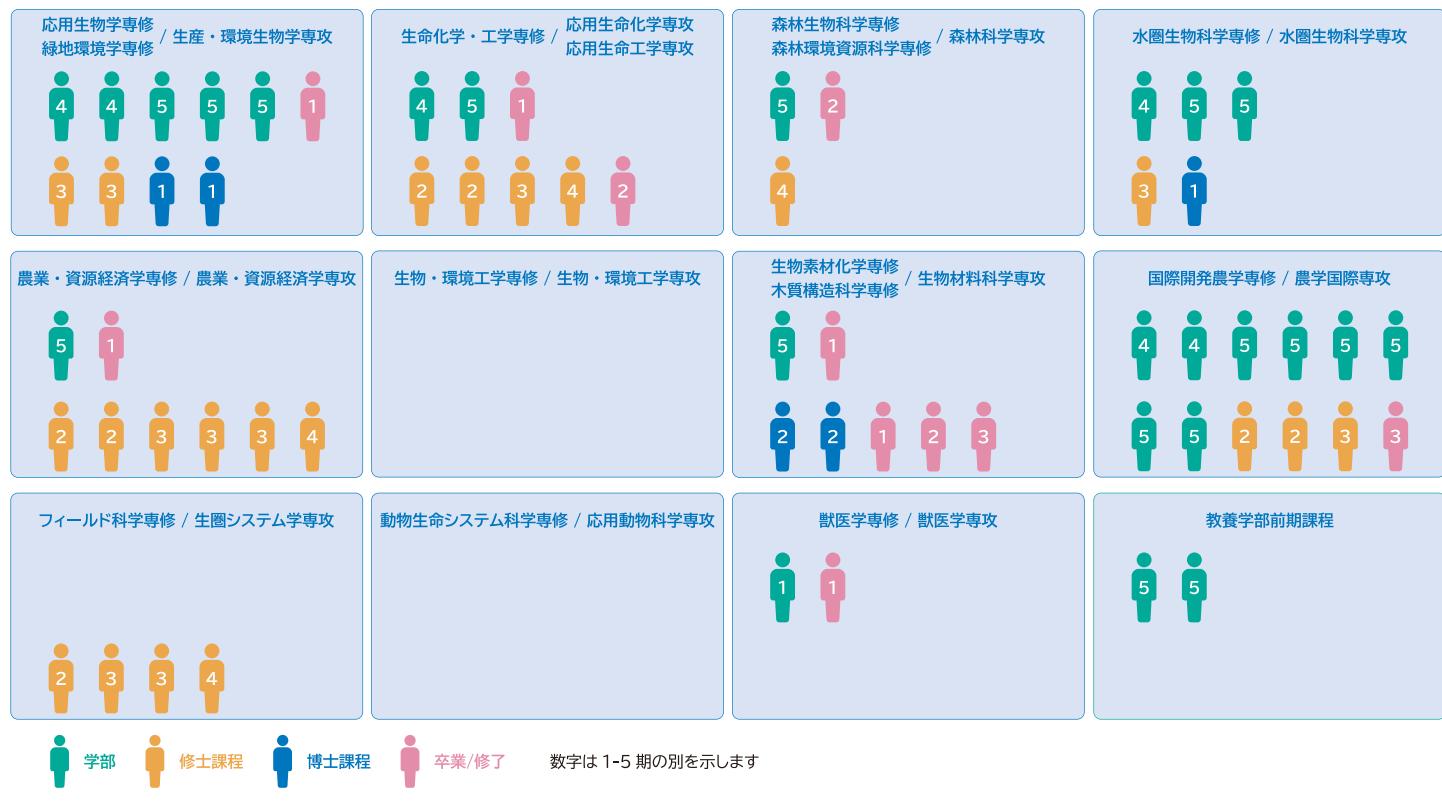
### ご寄附への御礼

皆さまにいただきましたご寄附は、実学研修の実施のために必要となる交通費、宿泊費、調査費などを受講生に支援する実学研修補助費制度のほか、セミナー等における講師の招へいや、社会への発信や交流の場の構築などのさまざまな形で大切に活用させていただきました。皆さまのご支援に、心より感謝申し上げます。

# 受講生(1-5期生)の分布

(所属は2022.4.28現在)

東京大学農学部は14の専修、大学院農学生命科学研究科は12の専攻から構成されています。横断プログラムであるOne Earth Guardians育成プログラムは、さまざまな専修・専攻から多様な専門分野の学生が参加しています。2022年度(第5期)より全研究科・学部の学生にも募集範囲を広げ、教養学部前期課程の学生3名からも応募がありました。4月に募集と選考を行い、応募者20名より17名を第5期生として決定しました。(2023年度は、教養学部前期課程の1年生5名を含む、18名の6期生が新たに参加しました)



## 受講生の進路

株式会社雨風太陽（旧名：株式会社ポケットマルシェ）／株式会社出光興産株式会社／NHK／環境省／キーコーヒー株式会社／株式会社サンケイエンジニアリング／株式会社シグマクシス／株式会社スマートブルー／住友化学株式会社／東京都庁／国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構／農林水産省／マッキンゼー・アンド・カンパニー／株式会社リクルートホールディングスなど

## OEGs受講生の声

### 1期生 生産・環境生物学専攻

多様なバックグラウンドをもつ方とアイデアを出し合ったり議論を展開させたりすることで、自分だけでは到達し得ないような発想に行き着くことも多かった。一方で、学術的な知を基盤として将来の地球のシナリオを具体的に想像する解像度はとても十分とは思えなかったため、複雑な相互作用を読み解くための基礎知識の把握やそれを根拠とした想像力の向上を、より時間をかけて行う必要があるとも思い至った。

### 4期生 応用生物学専修

今後の課題を述べて終わるとする友人との会話の中で自分のOEGsでの活動を伝えるのは憚られる。変に意識が高く説教くさい人となってしまいかねないと思うからだ。ただ、友人にさえ伝えられないことが社会に浸透していくことはなかなかないと思うため、伝え方を考えて行動に移していきたいと思う。

### 5期生 国際開発農学専修

大切なことは、「決まりきった答えはなく、何が正しいかはわからない」という事実を認識していることであると思います。すぐに答えを求めるのではなく、どういう構造で何が問題なのかをきちんと把握した上で、問題に対処していくことが必要になると感じました。

### 2期生 農業・資源経済学専修

現在にはたくさんの問題があることは確かで、だからこそ現実を変えるべきだという気持ちは誰もが持っていると思います。しかし、社会のメカニズムに目を向げず、「社会構造がこういう風に変わったら解決する」という理想論だけを語っても何も解決しないのではないかと感じています。

### 4期生 森林科学専修

今年度に得られた気づきの1点目は「自力でできることは非常に限定的であり、活動を成功させる条件としてOEGsネットワークを上手く活用する必要がある」ということである。

### 4期生 緑地環境学専修

待っていても自分のやりたいことは降ってこないので、自分の理想の未来を実現するために行動していくと強く決意しました。

### 5期生 生物素材化学専修

世界は思っているよりもずっと速く変わり始めているということに気付けたことは、今後の活動にとって非常に良いことだったと思います。

### 3期生 水圏生物科学専修

グローバルな課題に対処する際にはステークホルダーは多様なわけであるが、その際にもそれぞれにしっかりと届くようにアプローチしなければならず、個別にターゲットを分析し、1ステークホルダーずつ地道に対応していく必要があると感じた。その積み重ねで社会全体が変わっていくのだと思う。

### 5期生 国際開発農学専修

私がOEGsに入ったばかりの頃は、「地球の未来を守るために何かしなければ」と強く思っていたものの、できることは限られている上に、仲間が少ないのではないかと思っていた。しかし今では、多くの人々を巻き込んで力を合わせれば、課題の解決方法を見つけて、実践することができると思うようになりました。

### 5期生 森林環境資源科学専修

他者の持つ着眼点や考えを受容しつつ、考えを他者と積極的に共有することを心がけるようになった。たとえ些細なことだとしても、ひょっとしたら他の人は気づいておらず、何かを前進させるきっかけになる情報かもしれない、という考え方を得られたからだろう。

## 教育活動・研究活動 など

- 2022.4- ムーンショット目標5プロジェクト「自然資本主義社会モデルを基盤とする次世代型食料供給産業の創出」(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.4.1 農学部の研究室を覗いてみよう(高橋 伸一郎 教授、潮 秀樹 教授、樋口 洋平 准教授、五十嵐 圭日子 教授)
- 2022.4.8- 教養学部前期課程 全学自由研究セミナー「地球医のすすめ：タネ蒔く農学部有志」開講(高橋 伸一郎 教授、潮 秀樹 教授 ほか)
- 2022.4.27 農林水産省産学連携室との意見交換会「東京大学農学部発の教育・研究プログラム：One Earth Guardians育成プログラムの背景、概要、将来」(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.6.18 第134回(2022年春季)東京大学公開講座「グリーントランスマーケティングへの道：個人と社会の架け橋」3日目「GXと社会」にて講演(中西 もも 准教授)、総括討議司会(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.6.18-19 日本科学振興協会キックオフミーティング「自然資本主義社会モデルを基盤とする次世代型食料供給産業の創出～人と地球の未来をつなぐ「食」を考える～」(高橋 伸一郎 教授、潮 秀樹 教授 ほか)
- 2022.7.9 東京都生物教育研究会議にて講演「アミノ酸シグナルとインスリン様シグナル：『学術』研究から『生術』研究へ、そして100年後の地球のことを考える教育・研究プログラムへ至った道筋」(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.7.15 アステナグループ主催：アステナ・サステナビリティ・ラボで講演(橋本 禅 准教授、中西 もも 准教授)
- 2022.8.3-4 東京大学オープンキャンパス2022「農学への招待：100年後の地球のために何ができるか、一緒に考え、研究しませんか？」(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.10.4- 教養学部前期課程 全学自由研究セミナー「Agric Scientists Studio Interview」開講(高橋 伸一郎 教授、潮 秀樹 教授 ほか)
- 2022.10.6 大阪府立大手前高等学校向け見学会「農学への招待：100年後の地球のために何ができるか、一緒に考え、研究しませんか？」(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.10.21 都立新宿高等学校模擬講義「人類はこれから何を食べていくべきなのか？：次世代栄養学・代謝学のすすめ」(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.10.26-28 アグリビジネス創出フェア2022「自然資本主義社会モデルを基盤とする次世代型食料供給産業の創出」(高橋 伸一郎 教授 ほか)
- 2022.11.10 西大和学園高等学校への農学部紹介・模擬講義「農学への招待：100年後の地球のために何ができるか、一緒に考え、研究しませんか？」(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.12.2 静岡県立榛原高等学校による農学部訪問「農学への招待：100年後の地球のために何ができるか、一緒に考え、研究しませんか？」(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.12.23 東京都立新宿高等学校による農学部訪問「農学への招待：100年後の地球のために何ができるか、一緒に考え、研究しませんか？」(高橋 伸一郎 教授)
- 2023.2.2 東京都立日比谷高等学校での講演「地球のことを一緒に考えませんか？：東京大学One Earth Guardians育成プログラムとの協創」(高橋 伸一郎 教授)
- 2022.3.10 東京都立西高等学校キャリアガイダンス・パネルディスカッション「私たちは失敗から何を学んだか」(高橋 伸一郎 教授)  
この他、企業向けや学校での講義・講演などを行っています

## 一般社団法人 One Earth Guardians オフィス設立

- 2022.7.7 One Earth Guardians育成プログラムに関する教育・研究とその成果を社会で活用することを目的として「一般社団法人 One Earth Guardiansオフィス」を設立しました。大学内にとどまらず社会の皆さんと双方向で推進する体制をより強化しつつ、東京大学の組織である「One Earth Guardians育成機構」と「一般社団法人 One Earth Guardiansオフィス」の両輪で、One Earth Guardians育成プログラムの活動を充実させていきます。

## 内閣府「総合知」活用の好事例として選出

- 2023.2.2 One Earth Guardians育成プログラムが、内閣府の提唱する「総合知」活用の好事例として選ばれました。第2回総合知ウェビナー「総合知の普及と活用による新たな価値の創造～総合知活用事例からみる社会課題解決プロセスと未来社会の創造～」で講演し、プログラムを紹介しました。(高橋 伸一郎 教授)



第2回総合知ウェビナー  
開催概要・資料

## 「ワン・アーソロジー」実学研修

社会とのかかわりの中で学ぶことを通し、科学の基礎力と俯瞰力を課題解決につなげる力を培うため、協力企業・NPOなどと受講生と共に取り組むインナーシップです。教員も交えながら産業界や社会の実課題に向き合い、協働創出の場ともなります。  
OEGs認定科目「ワン・アーソロジーI・II・III」において実施します。

## One Earthology Seminar

100年後のありたい姿、どんな地球に生きていきたいかを思い描きながら、学び、話し、考えるOne Earthology 協創の場。学生、教員、企業等の方が参加して、異なる背景を持つ者が同じテーブルにつき、時にトレーディングにもなる多様な視点をふまえた対話を行います。  
2022年度は「食」「土」「海」の3テーマで開催

## LUC Lecture

Learn and Unveil through Conversation

LUCには「光」という意味があります。学外、学内の講師によるレクチャーを受け、意見を交換することで、これまで見えていなかったこと・知らなかつたことに目を向け、考える「=光をあてる」ための学びの場とします。

## 企業・プロジェクト等との コラボレーション

企業やプロジェクトとのコラボレーション企画。特定のテーマや課題を深掘りし、One Earth Guardiansとしての提案につなげます。コンテンツや商品の形で具現化する例も出てきています。

## 受講生たちによる対外活動

受講生有志による自主ゼミのほか、学外における活動として登壇や企画したイベントなど。受講生たちが自発的に、分野横断的なコミュニティ形成や社会への働きかけを充実させてきています。

## 0 to 1 Workshop

ゼロから1を創りだした経験をもつ起業家などの方々の実体験を活かしたハンズオン中心のワークショップ。リーダーシップや他者を巻き込む力を養う場を目指し、そのための土台となるコミュニケーションやプレゼンテーションスキルを磨きます。



## Good Life on Earth とは？

自分自身が夢中になれる“何か”を切り口とした、地球の未来につながるアイデアを抱く高校生・高専生・大学1-2年生を対象に、そのアイデア実現の道のりをバックアップする新しい仕組みのプログラムです。選考を経て選ばれたプレイヤーたちは、初年度（PHASE01）はアイデアのブラッシュアップ、2年目以降（PHASE02）は実際に研究室で手を動かしながら研究開発やプロトタイピングを進め、社会実装を目指します。One Earth Guardians と一般財団法人トヨタ・モビリティ基金が共同で実施するプログラムです。



# Good Life on EARTH

## Good Life on Earth に込められた想い

Life には「生命」と「生活」の二つの意味があります。

私たち自身が、よりよい生命でありたい。

この星に生きるすべての生命の生活を、よりよいものに変えていきたい。

すべての生命が共存できる地球のために。

シンボルマークは、創造的なアイデアを持つ若者たちが、型にはまることなく自在に成長し、有機的につながりながら、Good Life を目指して拡がっていく、躍動感や芽吹きの様子を表しています。

## 01

### 光るアイデアを持つ若い世代が主役

#### プログラムの3つの特徴

自身が夢中になれる“〇〇”を切り口とした地球の未来につながるアイデアを持ち、その実現に情熱を燃やす高校生・大学生等を募集しました。2022年度は7月19日～8月18日の応募期間に約90件の応募があり、書類選考とオンライン面接を経て8名の採択者が採択され、プレイヤーとして活動しています。

[選考の観点：Creative / Edgy / Original / Passionate]

#### 2022年度採択のプレイヤー



小河原 柚名さん  
普通土学園高等学校  
2年



小崎 里紗さん  
Crimson Global Academy/  
S高等学校  
1年



小西 ひなさん  
普通土学園高等学校  
2年



佐藤 遙花さん  
大分県立大分舞鶴高等学校  
3年



谷垣 聰音さん  
茨城県立竹園高等学校  
3年



平塚 杏紗さん  
名古屋国際高等学校  
3年



牧田 陽奈子さん  
慶應義塾大学  
2年



溝口 元氣さん  
芝高等学校  
1年

※各プレイヤーの所属・学年は採択時点

## 02

### アイデアの実現を全力で応援する体制



人



環境



資金

OEGs の教員と、UT7（次世代生命概念創出研究グループ）のメンバーである薬学系、医学系、工学系、情報理工、新領域創成科学など様々な分野で構成される東京大学の教授らがメンターとしてプレイヤーをサポートし、それぞれのプロジェクトを進めます。活動2年度目からは大学研究室に参加して最先端の研究設備を利用しつつ、そこに息づく知に触れながら、研究や開発、プロトタイピングを実施していきます。またこれらの活動にかかる費用はプログラムより支援されています。

## 03

### ともに触発し合うコミュニティ

それぞれ “Good Life” を目指す同志が集まり、その実現を応援する人々も含めた新たなつながりを生み出して、互いに刺激しあい学びあうコミュニティを形成していきます。2泊3日の合宿スタイルでキックオフを開催。その後も随時、「CROSS：参加者が互いに交わり、学びあい、響きあうことを目指す」、「BUMP：尖った先達に出会って衝撃を受ける」といった全員参加型の企画が行われました。また、現地を訪れて人と対話や五感を通じた課題と可能性の探索を行うためのフィールドトリップ（新潟県長岡市）も実施。各プレイヤーのプロジェクト進捗を発表する年度末プレゼンでは、メンターからフィードバックを受け、参加者同士でもアドバイスをしあいました。

#### 2022年度の活動（一部）



キックオフ合宿 | 2022.10.8~10.10



CROSS#1自分の“〇〇”をシェアしよう～聞いて、見て、触れる  
| 2022.11.12



年度末プレゼン | 2023.3.4



Field Trip 2022 at 新潟県長岡市 | 2023.3.26~3.28

#### WEB サイト・SNS

Good Life on Earth を社会に広げ多くの方にファンになっていただくことを目的に、活動の様子を随時発信しています。2023年3月に新たに公式WEBサイトを開設した他、各種SNSを活用して活動の今をお届けしています。



WEB サイト



Instagram



YouTube



Facebook